

## 令和7年度 南安曇農業高等学校 学校評価表(自己評価)

学校教育目標							
勉学・健康・品位の向上を図り、健康で教養豊かな科学的農業人を育てる。							
重点目標(中長期)		達成状況	成果	次年度への課題			
食料・環境・生命に関する教育を通して豊かな人間性と生きる力を育み、地域産業や地域文化の継承を担う人材を育てる。また、地域と連携して開かれた学校づくりを進め、安全で安心して学べる学校づくりに努める。		4.1 A	専門教育を軸としながら、学校全体の学習活動や諸行事を通じて、生徒一人ひとりが本気で取り組み、成長を遂げ、大きな成果をもたらした一年であった。今後も引き続き、地元のご協力を得て、次世代を担う人材を育てる学校としての役割に邁進したい。	学校生活に悩みや困難を抱える生徒について、相談しやすい雰囲気づくりの体制の確立や学習ニーズへの対応を検討していく必要がある。基礎学力の定着、資格取得、進路実現のための学習補充など、個に応じた個別指導を継続していきたい。			
本年度の重点目標							
番号	項目	内容	観点(内容の詳細は別紙学校教育目標を参照)	達成状況	成果	次年度への課題	
1	地域連携	開かれた学校づくり	① 各教科の授業や農業クラブの研究部活動での地域連携の精選と充実を図る。	4.1	3.8 A	①②では、地域や自治体、地元企業等と連携した教育活動、また農業クラブ研究部による学校開放講座により、様々な年代との関わりを持つことで、生徒は総合的な学力を身につけるとともに、生きる力の育成にも繋がった。市役所の協力を得て、南農マルシェを開催、地元小学校との学習交流など、新たな取り組みも行った。 ④では、学校公式Instagramが適時に発信され、学校の情報発信が行えた。 ⑤では、地元人材を講師にスマート農業機械の実演など先進的な農業学習を行った。収穫祭を校外の施設で公開で開催し、記念講演会を実施、農業学習を広くPRした。	②では、地元自治体や企業等との連携は進んでいるが、大学や専門学校等の高等教育機関との連携は進んでいない。卒業論文研究等における指導助言など学習活動の深化に繋がるよう工夫していきたい。 ④では、学校公式Instagramが適時に発信されている一方、専門学科の情報公開が欲しい等の要望もあるので、学校ホームページを使って学科ニュースを定期的に発信し、学習活動の様子を情報発信していきたい。
			② 安曇野市との官学連携において関係機関との連携を深めながら地域振興を図る。	3.9			
			③ 高等教育機関との連携により大学等の教育資源を活用して農業教育の充実を目指す。	3.2			
			④ 学校WEBページやInstagramによる地域や中学向けの情報発信を有効に活用する。	3.8			
			⑤ 南農の発展に向けて、地域人材や同窓会との連携を図る。	3.9			
2	生徒指導・安心・安全な学校	安心・安全な学校	① よりよい生徒理解のため、情報を共有するための組織作りと職員会での情報共有を行う。	3.3	3.6 A	学校全体としては、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送れた。 ③・④では、アセスを、年2回実施し、職員研修会を行い、情報共有を図ることで、生徒支援へと繋げた事例もあった。また、外部関係機関とも連携して協力を得ながら組織的な対応を取ることができた。 ⑤では、SNSを介したトラブルがみられ、未然に防止することが困難であった。また、適切な解決法を見出すことが難しかった。 ⑥⑦では、生徒会を母体とした、行事の企画立案運営を行うことにより、学年・クラスのみならず一層強まった。また、タブレット端末を使った情報発信や会の運営をスムーズに進めることができた。	②③では、スクールカウンセラーや外部機関との連携が必要とされる場面が高まっているので、特性や疾患、悩みを抱える生徒への教員間での情報共有を図りながら、早期の組織的な対応を心掛けていく必要がある。 ④では、アセスの結果を踏まえた個人面談の実施等、有効な活用方法を検討していきたい。 ⑤では、生徒のスマートフォンや携帯電話の取扱いについて節度を持って利用できるような粘り強い指導を今後も継続していきたい。また、SNSを介したトラブルが大きな問題とならないよう相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける相談体制を確立していく必要がある。
			② いじめや生徒間トラブル、問題行動の未然防止につとめるとともに、問題の早期発見と解決の指導を行う。	3.6			
			③ 教育相談体制を充実し、生徒・保護者への周知を積極的に行う。	3.9			
			④ 生活アンケートやアセスを実施し生徒の状況を適切に把握する。	4.1			
			⑤ スマートフォンやインターネットへの関わり方について指導し、ネット上でのトラブルやいじめがないように図るとともに、問題を早期発見し拡大しないよう予防教育に努める。	3.5			
			⑥ 生徒会と連携し、携帯電話・スマートフォンの使用について生徒自身が使い方について考える取り組みを行う。	3.3			
			⑦ 様々な行事を通して、クラスや学年での生徒間のコミュニケーション活性化を図る。	3.7			
3	学習指導	学力の向上	① 授業アンケートを生かして授業改善を実施する。多くの生徒が「よい(よく分かる)」「たいへんよい(たいへんよく分かる)」と感じられるように努力する。	3.9	4.0 A	①では、年2回の授業アンケートから「よくわかる」、「たいへんよくわかる」との回答が多く寄せられたので、今後も生徒が「わかる」「楽しい」と思える授業づくりに一層努力していきたい。 ④⑤⑥では、各学科の目標に沿った教育活動を展開してきたことにより、専門的な知識技能表現力を競う農業クラブ活動においては、農業鑑定競技や意見発表、フラワーアレンジメントコンテストなど、全国大会等で優秀な成績を収めることができた。また、微生物活用コースでは、国土交通大臣賞を受賞するなど地域産業の発展に貢献したレベルの高い研究活動が評価された。地域と連携した教育活動がカリキュラム内で展開されており、農業や産業・地域資源を題材にした探究的な学習活動を「卒業論文発表会」として行えた。	①では、生徒が学びの主体となるよう引き続き努力していきたい。シラバス等で、単元や目標に照らし合わせ、また学習の共通事項を確認しながら、専門学科やコースの学びと連携した教科横断型の学びを進め、学習を深化統合を図りたい。 ②では、年間を通して国数英の3教科による基礎テスト、SPIテスト、各教科による課題、レポート作成等により、家庭学習の習慣化を図る。漢検や英検、数検などの資格取得を進めることで基礎学力の向上に繋げたい。 ③では、専門学科において高い学習活動を展開するために教職員による研修機会の参加を促していきたい。また、関連団体との連携を継続して進めていきたい。 ④⑤⑥では、資格取得だけが目標とならないようシラバスの見直しを進めていきたい。
			② 基礎的・基本的な学力の向上のため、各教科にて課題を出し家庭学習の習慣化のための工夫をする。	3.3			
			③ 課題研究やプロジェクト研究等、探究的な学習への主体的な取り組みを通して、総合的な学力の向上に繋げる。	3.9			
			④ グリーンサイエンス科では、栽培・管理・栽培物の活用に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、交流学習や販売実習等の実践的な体験活動を通じて協力的な学習や言語活動の充実を図り、「コミュニケーション力」「企画力」「指導力」等、総合的な学力の向上を図る。	4.0			
			⑤ 生物工学科では、植物・動物・微生物に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、実験・実習及び研究活動等を通して、地域資源を有効に活用した課題解決型学習の展開を図り、生命への科学的なアプローチによる課題解決能力や思考力等、総合的な学力の向上を図る。	4.0			
			⑥ 環境クワイエット科では、測量設計・土木施工・造園などの基礎的知識・技術を習得させるとともに、産学官連携の充実を図り、専門的技術(資格取得等)の学習を通して、専門力と創造力を必要とする探究的な学びの実践等で、総合的な学力の向上を図る。	4.0			
4	キャリア教育・進路指導	キャリア教育の充実	① 就職・進学指導体制の充実を図るための研究、情報収集を続けた。	4.1	4.0 A	②では、職員全員の協力により、毎日の朝学習指導が実施できた。 ③では、生徒の第1希望の進路実現に向けて、個別のきめ細かな指導が行えた。 ④⑤では、危険物取扱者試験乙種全種に2名が合格、アグリマイスターでも生徒特別表彰を4名が受けるなどの優秀な成績を修めた。 ⑤⑥では、2年次に進路が決定している生徒が多く、それぞれの学科やコースの学習を活かした進路決定が行われており、キャリア形成づくりの整備が整っている。	④では、将来のキャリア形成に資格取得が大きな役割を果たすことを踏まえつつ、スペシャリスト育成に通じるような学びを今後も授業で取り組んでいきたい。これまで朝学習「鷗の時間」については、基礎学力を図るための取組として、ドリル等を組み合わせて行くことで、基礎学力を意識した取組を行ってきたい。
			② 朝学習「鷗の時間」が更に有効な取り組みとなるよう工夫を図りながら実施する。	4.0			
			③ 生徒の多岐にわたる進路希望の実現のため、個別指導の充実を図る。	4.0			
			④ 資格取得に取り組む学習環境を整え、多くの生徒が合格できるように支援を行う。	4.2			
			⑤ 鷗塾が更に有効な取り組みとなるよう計画することで、生徒の参加を促し、それぞれの進路実現に向けた学力の向上を図る。また、1・2年生の積極的な参加を促す。	3.9			
			⑥ 大学進学希望者について、様々な機会を活用し学年・クラス担任と連携して早い時期からの意識づくりを行う。	4.0			

\* 達成状況の評価の基準は S:目標を大幅に上回った A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

\* 5段階の評価数値による集計で 4.5以上 4.4~3.6 3.5~3 2.9以下 を目安とする

## 令和7年度 長野県南安曇農業高等学校 学校関係者評価

## 1 各評価項目のそれぞれの評価の観点についての評価

(評価は5:達成できた、4:ほぼ達成できた、3:改善の余地がある、2:相当の改善を要す、1:判断できない)

評価項目	評価の観点	評価
重点目標 (中・長期的目標)	食料・環境・生命に関する教育を通して豊かな人間性と生きる力を育み、地域産業や地域文化の継承を担う人材を育てる。また、地域と連携して開かれた学校づくりを進め、安全で安心して学べる学校づくりに努める。	4.8
1 開かれた学校づくり (地域連携)	地域と連携した教育活動および高大連携事業の充実を図るとともに、本校教育活動の地域や保護者への広報活動を充実し開かれた学校づくりを進める。	4.8
2 安全・安心な学校 (生徒指導・生徒支援)	すべての生徒が安心して学習活動に取り組み、学ぶ喜びと充実感を得られるように生徒指導・生徒支援の充実をはかる。	4.7
3 学力の向上 (学習指導)	すべての生徒が『分かった』と感じ、学ぶ喜びと充実感を得られるように授業内容の充実をはかるとともに、専門科では学科・コースごとの特性を生かした授業を追求する。	4.3
4 キャリア教育の充実 (キャリア教育・進路指導)	生徒の将来を見据えた3年間の繋がりのあるキャリア教育を作り上げるとともに、卒業時に希望の進学就職ができるように進路指導の充実を図る。	4.8

## 2 いただいた意見・提言等

生徒1人1人が自身の目標を目指して一生懸命に取り組んでいる姿が見受けられ、頼もしく、誇らしく思います。三年間という限られた時間の中で更に新しいことに挑戦し、自らの人生の土台作りをしている生徒の皆さんにエールを送ります。また、その生徒の皆さんを、それぞれの目標に向かって見守り続けてくださる学校長を始めとする教職員の皆様に心から感謝申し上げます。引き続き、大変お世話になります、よろしく願いいたします。

いつも本校にご配慮いただき、ありがとうございます。安心安全に生活できていることに感謝いたします。今後も協働的な学びができますようよろしくお願いいたします。

長野県では人口減少下における行政サービス維持の課題として、土木職員の確保が困難になっており、広域的な対応や県による補完が必要としている。本校としてぜひ地方公務員を養成し、地方公務員養成高校になっていただきたいと思ひます。

学校評議員会での先生方の説明一つ一つが、常に生徒を中心として学校運営に努めていることを感じました。また、アンケート結果からも「クラスでは個々の生徒を大切に、安心して過ごせる場所となるよう努力されている」ことを95%がそう思っていることは、生徒にとって学校に行けば自分の居場所があるということに繋がりますので、クラスをを大事に生徒の生徒の居場所づくりが必要と思ひます。昨年と同様に、南農祭には多数の地元の皆さんが朝早くから学校を訪れるのを見ていますと学校と地域との繋がりを感じます。また、新聞やテレビ報道などで南農高校の生徒の皆さんの様々な活動が報じられたときには、地元の誇りに思えて南農高校がとても身近に感じる事が、多くの地元市民の声だと思ひますので、地元との繋がりとなるような活動も大切にしたいと思ひます。

現在の教育活動を進めていってほしいと思ひます。キャリア教育の一環として二年次の夏季休暇を利用しての職場体験を行っています、以前のように一週間の研修の形にならないかと思ひます。